

## 現代ギリシア語と日本語における

### 「親と子」に関する諺の対照研究

浮田 三郎

はじめに

両国民にとって、諺の世界に現れる「親と子」の存在あるいは意義は何であろうか。当然親があって子ができる。その間には、切っても切れない関係、あるいは愛が存在する。諺の世界は、そのような関係、状況がある時は厳しく、ある時は面白く表現している。(cf. Ukida, Saburo (1997-8))

本稿は、現代ギリシア語と日本語における「親と子」に関する諺を対照考察し、そこに見られる表現の仕方と考え方の類似点と相違点、さらに、民族的、文化的な背景を考察するものである。

ただ、今回は、主として現代ギリシア語の諺を考察するもので、日本語の諺の例は参考として参照することにする。以下、日本語の諺には(J)で示すことにする。

なお、本稿は、2004年10月広島大学で行なわれた学会で口頭発表したものに、加筆修正したものを研究ノートとして提出することにした。

#### 1 親の子に対する愛

親の子に対する愛は、万国共通であると思われるが、諺の表現の仕方には、興味ある差が見られる。

- (1) 'Οποιος έχει μάνα έχει τράπεζα στην Αθήνα και μαγαζί στη Θεσσαλονίκη.  
母親をもつ者は、アテネに銀行テッサロニキに店をもっている。
- (2) 'Οποιος μου δίνει ψωμί, τον λέω πατέρα και μάνα.  
私にパンをくれる人、その人を私は父母と呼ぶ。
- (3) 'Οποιος ανατρέφει αγαπάει.  
養う者は愛する。

- (4) Καλύτερα η μάνα σου να σε κλάψει παρά ο ήλιος του Μαρτιού να σε κάψει.

三月の太陽がお前を焼くより、お母さんがお前を嘆く方がましだ。

このように、これらの現代ギリシア語の諺では、親の子に対する愛は、確固たるものであり、特に母親の愛は、子に大きな幸せを与えている(1)。ここでは、母親の愛が誇張されアテネの銀行あるいはテッサロニキの店と表現されている。(2)では、「パンをくれる者」とは、「育ててくれる者」であり、それは、他ならぬ親である。(3)では、「親」という表現はないが、「養う者」は(2)でも見たように、当然親のことであろう。(4)も母の子に対する痛いような愛情の表現である。長い冬の後の三月の春の太陽は非常に強いものであり、これに焼かれると大変なことになる (cf. 「三月の太陽は牛の角に穴をあける」)。母が、子のことを思い嘆くことは本当に悲しいことであるが、それでもまだ三月の太陽に強烈に焼かれるよりもましで、それほど強く子を愛しているということであろう。

そうして、(5)のように、親となるブドウの茎がなければ、美味しいふさふさとしたブドウはならない。親がなければ子供は産まれない。そして、親の愛を受けながら支えられながら、子供は育つのである。

- (5) Δεν είναι σταμπί σταφύλι χωρίς σταμπίουρο.

茎のないブドウの房はない。

日本の諺でも、以下のように、親子の愛の強さ、結びつきの強さ、親の子に対する絶対的な愛を表現している。

- (J1) 親と子どもは銭金では買われぬ
- (J2) 子の命は親の命
- (J3) 親の恥は子の恥子の恥は親の恥
- (J4) 親の光は七光
- (J5) 親と月夜はいつもよい
- (J6) 親は子の守り神
- (J7) 人の子の死んだより我が子の転んだ
- (J8) 馬鹿な子を持ちゃ火事よりつらい
- (J9) 母が痩せると子が太る

## 2 子供は大切

子を愛するが故に、子は親にとって大切である。上でも見たように、親に

とって、子は嘆きの種にもなったり、迷惑をかけたり特別に気を使わせたりし  
もするが、子がいなければ人生は楽しみも半減するであろう。だから、次のよ  
うに、子供がいなければ、長生きもしないのである。適当に臍をかじる子が  
いれば、反って親は長生きすることがあるというのである。

(6) Η στέρφα γίδα δεν πεθαίνει παλιά.

子供のできない雌山羊は長生きしない。

日本の諺(J8)のように、泣くのは辛いためであるが、また(J10)のように、泣  
けるということも、逆説的に、人生の喜びであろう。(J11)では、子供はお荷  
物と言われることがあるが、多くの場合、親にとっては荷物とは感じられない  
のである。

(J10) 無い子では泣かれぬ

(J11) 子供と鞆丸は荷にならぬ

しかし、

(7) Γουρούνα παχιά δεν κάνει γουρουνάκια.

こえた豚は子豚をつくらぬ。

というのはどのようなことであろうか。自分よがり自分だけが食べていると  
満足で、子供等はいない方がいいからだろうか。結果の現象として、子供がい  
ないから自分だけで充分食えることができ、肥えるのであろうか。実際、多く  
の動物の世界では、栄養過多で肥満になると生殖機能が落ちるようである。こ  
れは、現代のグルメの独身女性の裕福なことと現代社会の少子化に対する皮肉  
でもある。

(J12) 子がなくて泣くは芋掘りばかり。

(J13) 馬鹿な子を持ちゃ火事よりつらい

(J9) 母が痩せると子が太る

ところで、日本語の諺では、(J12)のような「芋掘り」を比喩表現の取り合  
わせにした表現で、「子は嘆きの種にもなったり、迷惑をかけたり特別に気を使  
わせたりしもするので、子供は無い方がいい」と述べている諺もいくつかある  
が、当然子供はいた方がいいという諺が大勢をしめている。

### 3 父と子

そして、父親は、子供にとってはいつまでたっても親であり、とてつもの  
大きな存在である(8)。それをここでも誇張表現を利用し、「父の家の黄金  
の門」で表現している (cf. (1))。

(8) Το σπίτι του πατέρα μου έχει χρυσές πόρτες.

私の父の家には、黄金の門がある。

日本の諺にも、1.1でも見たように(J2, 4, 5, 6)、誇張表現がみられ、特に親の愛の強さを表現している。

また、親と子の関係では、次のような表現も見られる。

(9) Τοι' πατέρα σου θέλεις να μάθεις να κάμνει παιδιά.

お前のお父さんに子供を作ることを教えたいか。

ここでは、父は良き先輩であり、知恵も知識も自分より上である。子作りに関しても当然よく知っているから「お前」が存在するのであり、「釈迦に説法」(J)ということであろう。

しかし、日本の諺では、時にはまた場合によっては、子供が親に何かを教えることもあるという。

(J14) 負うた子に浅瀬を教えられる

#### 4 子は親に似る

親の DNA を受け継いでいる子供は、当然親に似ているはずである。そっくりな親子はよく見受けられる。その上、多くの場合、子供は親を見て育ち、考え方や習慣まで親に似てくるのは、当然といえば当然である (Ukida, Saburo (1997-8))。

(10) Όποιος ο πατέρας τέτοιος ο γιός.

父親のように、そんな息子。

(11) Θυγατέρα της γάτας πιάνει πουτίκια.

猫の娘はネズミを捕らえる。

(12) Όλα τα νερά πάνε στη θάλασσα.

すべての水は海に注ぐ。

(10)では、表現そのままである。

(11)では、猫を比喩の素材として取り上げ、その動物が持っている本能をそのまま子が引き継いでいるという事実を比喩的に表現にしている。

(12)は、いくつかの意味の比喩表現として使用されるようであるが、親子関係で見ると、水は高い場所から低いところに流れるように、「親の資質は子に受け継がれる」というものである。

親子が似るという諺は、日本にも多く見られる。

(J15) 蛙の子は蛙

- (J16) 狐の子は面白
- (J17) 親がうそつきヤ子がうそ習う
- (J18) 子を見たければ親を見よ

また、日本では、逆に、親に似ないという諺も多く見られる。

- (J19) 鳶が鷹を生む
- (J20) 竹の子の親勝り
- (J21) 賢の子賢ならず
- (J22) 名人の子に名人なし

## 5 息子と娘に対する親心

また、現在では口にすれば差別だと言われるが、息子と娘に対する親の態度は、異なっている。(13)では、息子に関しては、ギリシア人の男性のおごりとも思える表現 (cf. 「女は葦のようなもの、お望みのところで得られる」) と、娘に関しては、その立場の弱さを表明しているのに対して、(14)では、女性として男性に慕われる姿を表現している。これは、また、ホメーロスの『オデュッセイア』の中のペネロペーを連想させるのも面白い。

(13) Πάντρεψε το γιο όταν θελήσεις, τη θυγατέρα όταν μπορέσεις.

息子は結婚させたいとき、娘は結婚させうるとき、結婚させよ。

(14) Με μια θυγατέρα κάνει εκατό γαμβρούς.

娘一人で婿百人。

日本の諺でも、一般的には男の強い姿が強調されている。逆に、女性は、弱いものであるが、(14)のように慕われるのも女性である。

- (J23) 女は三界に家なし
- (J24) 男やもめに蛆がわき女やもめに花が咲く

## 6 子育て

そして、「子供はいれば嬉しいし、悩みの種にもなる」とは、1でも述べたが、子育ての難しさにも言及している。

(15) Πεθαίνουν πιο πολλά αρνάκια παρά πρόβατα.

羊よりも小羊の方が多く死ぬ。

(16) Όποιος θέλει καλό μοσχάρι, δεν πρέπει να 'ρμέγει την αγελάδα.

良い子牛が欲しい者は、母牛の乳をしぼってはならない。

(15)は、現実の状況であろう。人間の社会でも、現在では色々な医療機関等

が発達してきてはいるが、子供の方が大人に比べて抵抗力が充分ではなく、多くの子供が亡くなっているのが現状である。(16)では、母牛の乳を搾ってしまっ  
ては、丈夫な子牛を育てるための母乳がなくなるというのであろう。母親が  
子を育てるためには充分な世話が必要であり、他にその情熱が注がれるような  
ことがあれば、良い子が育たなくなるということであろう。それゆえに、これ  
には前述の日本の諺(J9)が対応するであろうが、子は無い方が好いということ  
も示唆されている。

しかしながら、日本の諺には、全く逆に、

(J25) 親はなくとも子は育つ

(J26) 子供は風の子

などと、親の身勝手な意見もあり、面白い。

## 7 子の親に対する薄情さ

しかしながら、子供は、他に恋人ができたり、結婚したりすると、親のことを  
忘れてしまいがちである(17)。

(17) Οποιος άλλο στόμα φιλάει, μάνα και πατέρα λησμονάει.

ほかの口にキスする者は父や母を忘れる。

(18) Ο ασπάλαθος άνθισε: ο λύκος μπορεί να φάει τη μάνα του.

ハリエニシダが咲いたら、狼はその母を食うかも知れぬ。

さらに、現代ギリシア語の(18)のように、ハリエニシダが2～5月に咲くこ  
ろ、すなわち春になると、狼の子は育ち盛りで、食欲旺盛で、その母も食って  
しまい兼ねないと言うのであろう。こんなことは、人間の世界でも起っている  
ことである。この諺は、しかしながら、子の母への裏切りと言うよりは、春の  
生命力あるいは食欲に対する誇張表現と考える方が妥当である。

ちなみに、ハリエニシダの花言葉は「変わらぬ愛」であり、皮肉的である。  
また、英国の昔話「三匹の子豚」に出てくる「藁とハリエニシダで造った家」  
の小豚は狼に食べられてしまうという昔話との連想は面白い。

日本の諺にも、(17)とそっくりなのがある。

(J27) 夫できれば親忘れる

また、(18)のような春の生命力の誇張表現には、例えに使った動物は異なる  
が、

(J28) 春先は死んだ馬の首も動く

のような諺が見られる。さらに、内容は異なるが、

(J29) 親の心子知らず

という諺もよく知られている。このように、親子の愛は強いはずであるが、微妙である。

しかし、親の愛、あるいは(18)とは逆の現象であるが、

(J30) 熱火を子に払う

というのもあり、親の愛も、窮極の事態あるいは異常事態にあつては、自分自身に対する愛の方が強くなるということもまた真であろう。

## おわりに

以上、日本語と現代ギリシア語における「親と子」に関する諺をいくつかのテーマに分けて対照考察し、そこに見られる表現の仕方と考え方の類似点類と相違点、文化的な背景を検討してみた。ここにふんだんに現れる比喩表現は、諺の最も代表的な表現形式と言ってよいが、両国の諺の比喩表現の仕方には、両国民の生活、文化を反映しているような比喩の対象が利用されていて、興味深い (cf. レイコフ, G. 1986)。以上で述べてきたように、それぞれのテーマに関わる比喩表現は、両国民のものの考え方をみせてくれている。

なお、今後の課題として、解釈が不十分なもの、今回取り上げた諺の他にも考慮にすべき諺、比喩形式の方法に関してもさらに考察してみるつもりである。

大方のご批評とアドバイスを頂ければと思っています。

## 参考文献

(和書)

石垣幸雄 (1986) : 『世界のことわざ・1000 句集』、自由国民社

浮田三郎 (1988) : 「日本語と現代ギリシア語 (方言) の諺対照比較研究—諺に見られる素材を中心に—」、『言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究』、広島大学教育学部、pp59-64

浮田三郎 (1989a) : 「日本語とギリシア語の諺対照比較研究 (2) —素材「女」の見られる諺を中心に—」、『広島大学教育学部紀要』、第2部、第37号、広島大学教育学部、pp301-309

浮田三郎 (1989b) : 「日本語とギリシア語の諺対照比較研究 (3) —素材「水」の使われたる諺を中心に—」、『留学生日本語教育に関する理論的・実践的研究』、広島大学教育学部、pp9-18

浮田三郎 (1989c) : 「日本語とギリシア語の諺対照比較研究 (4) —諺の中

- に使用されたる「動物」(1)一。『広島大学教育学部紀要』、広島大学教育学部、pp289-293
- 浮田三郎(1994)：「挨拶表現に見られる日本的表現法—日本語、現代ギリシア語、英語、中国語の挨拶表現を対照して—」、『広島大学留学生センター紀要』、第4号、広島大学留学生センター、pp1-13
- 奥津文夫(1978)：『ことわざ・英語と日本語』、サイマル出版
- 金子武雄(1982)：『日本のことわざ』(全4巻)、海燕書房、(一)評釈、(二)続評釈、(1983)：(三)評論、(四)概説・講説
- 関本至(1983)：「現代ギリシア方言に見る諺の修辞法」、『レトリックと文体』(古田敬一 編)、丸善株式会社
- 尚学図書編集(1982)：『故事俗事ことわざ大辞典』、小学館
- レイコフ, G., ジョンソン, M. (渡邊昇一, 他訳) (1986) 『レトリックと人生』、大修館書店  
(洋書)
- Βενεζέλου, I., (1965) : *Παροιμίες του Έλληνικού Λαού. Φοιτητική Γωνιά*, Αθήναι.
- Μιχαήλ, Μαρία-Δέδε, (1981) : *2500 Έλληνικές Παροιμίες (καί Λεγόμενα)*, Σπύρος Ν. Μπογιότης, Αθήνα.
- Rohlf, G., (1971) : *Italogriechische Sprichwörter in linguistischer Konfrontation mit neugriechischen Dialecten*, München
- Smith, William George, (1952) : *The Oxford Dictionary of English Proverbs*, The Clarendon Press, Oxford
- Τριανταφυλλίδη, Μανόλη Α., *Παροιμιακές Φράσεις από την Ιστορία και τη Λογοτεχνία*, Αθήνα
- Ukida, Saburo (1997-8) : A Contrastive Study on the Proverbs Related to Learning in Japanese and Modern Greek, *Intercultural Communication Studies VII-2* pp.107-127